

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告(第一輯) 14

廣西師範大學出版社

正

大正
昭和 7 年 12 月 調

小規模製鐵業ニ關スル調査報告

紙數	枚
地圖	葉
寫眞	葉

滿鐵地質調査所報告書類

目次

一、緒言

二、製鐵所名稱及所在地

三、設備

四、爐材

五、鐵礦

六、燃料

七、製品

八、鑛區表

九、細川組製鐵所

一〇、撫順製鐵所

一、栗本製鐵所

二、近藤製鐵所

三、臭水製鐵所

四、奉天製鐵所

五、大連製鐵株式會社

六、順興鐵工廠

七、株式會社寶英公司

八、株式會社旅順鐵工所

閩東州鐵鑛產地分布圖

一葉

小規模製鐵業ニ関スル調査報告

(大正七年十月
至同 十一月)

一、緒言

歐洲大戰カ我國製鐵業ノ發展ニ絶好ノ機會ヲ與ヘタルコトハ今更述フル迄モ無キ所ナルカ特ニ米鐵輸出制限以來我鐵界ノ混乱實ニ名状スヘカラス銑鉄ノ價額一噸五百円ヲ突破シ未曾有ノ高値ヲ呈セリ茲ニ於テ世間製鉄ニ對スル企業熱ニ煽ラレ至ル所小規模ノ製鉄工場勃興シ各地ノ小鉄鑛床ヲ探リテ製鉄ヲ営ミ或ハ古銑ヲ蒐集シ所謂再製銑ノ製造ニ從事シ奇利ヲ博セトスルモノ續出スルニ至リ本年

六月農商務省ノ調査ニ依リ此等ノ小製鉄所（製銑製鋼
合金銑鋼材製造等ヲ含ム）本邦内地及ヒ朝鮮ニ於テ既成
ノモノ計連中ノモノ合セテ百六十九ヶ所アリ其餘勢今十
滿洲ニ及ヒ大連撫順等ニ近來小規模ノ製鉄工場ノ建設セ
ラルモノ頗ル多ク鉄鑛ニ對スル探鑛熱亦盛ナルモノアリ然ルニ
偶々時局一轉休戰條約既成リ世界ノ平和將ニ到ラントスル
ニ及ヒ鉄價暴落如上ノ製鉄業ノ基礎忽チ動搖シ未
タ工事成ラズ熔鑛炉ノ火入ラ行ハサルニ事業ヲ中止スルモノア
ルヲ聞ク然レトモ亦戰後經營等ノ為メ鉄ノ需要ハ益増大
スヘク從ツテ價額モ或ル程度ヲ維持シ小規模製鉄事業ノ
前途必スレモ悲觀スヘカラストナシ泰然工事ヲ進メフアルモアリ
今此等ノ事業ニ関シ先般來調査セシ所ヲ一括報告スル所ア
ラントス

二、製鐵所ノ名稱及所在地

一、工事竣成ニ現ニ作業中ノモノ

大連市軍用地區

株式會社寶英公司

沙河口水會大山屯

大連鑄鐵株式會社

臭水會臭水子駅附近

水田製鐵所

(大連) 水田善三郎

奉天滿鐵附屬地鉄西

奉天製鐵所

(奉天) 牧野実四郎

撫順古城子

細川組製鐵所

(廣島) 平尾関太郎

撫順大官屯

撫順製鉄組合

(全上)

二、目下工事中ノモノ

大連市外沙河沙河口水會
天山屯

栗本製鐵所

(大連) 栗本勇之助

全上

大連製鐵株式會社

全上

大連鉄鉄公司

(大連 群津孝次郎)

大連市山崗子南德政街順興鉄工廠

(支那人 周文貴)

金州南門外水滌地附近 金州製鉄所

(大連近藤九一 孝天下村恭次郎)

以上各製鉄所ノ位置ヲ見ルニ主トシテ土地ノ借受ケ或ハ買收ノ便

宜ニ據リタルモノ如ク土地ノ形勢給水ノ難易或ハ鑛石燃料

等運搬ノ便否ヲ十分考察シタル結果ニアラサルヤ明カナリ

而シテ沙河口ニ多數設立セラレタルハ關東都督府カカル工場ハナ

ルハ同地ニ集合セシメトシテ方針ニ基クモノナリ然レシトモ現時關東

州ニ此種工場ニ對スル特別ノ規則ナク唯土地ハ貸下ニ降シ手心ヲ

用フルモノナリト云フ

今製鉄工場用地トシテ都督府ニリ貸下ヲ受ケタルモノヲ舉手



スレハ龍ノ如シ

一、六千坪

沙河口

栗本製鉄所

一、五千六百坪

左

大連製鉄株式會社

一、三千二百坪

左

大連鑄鉄株式會社

一、三千二百坪

左

大連鉄鉄公司

一、二百五十坪

軍用地區

株式會社寶英公司

尚出願中ノモノノ沙河口ニ株式會社寶英公司廣瀨安太郎ノ三

千坪アリ

此等ノ官有地貸下ハ何シモ期限大正十一年迄ニシテ借地料沙
河口一坪ノ月五匁軍用地區一坪ノ月一錢ノ定メナリ

三、設備

各製鉄所ノ製鉄装置ニ就テハ後章ニ於テ各別ニ之ヲ説
明スベキモ今其大要ヲ擧グルレバ熔鑛炉ハ廣島縣或ハ鳥取
縣地方ニ於テ從來砂鉄製煉用ニ供シタル角爐若クハ
丸爐(高炉ノ構造ニ類似ス)ニ據ルモノ多ク唯多少考案
ヲ施セリ而シテ角爐ナルモノハ一基ノ熔鑛炉ヲ以テ熱風
装置ヲ兼ネ亦烟突ヲモ別ニ要セサルモノニシテ構造頗ル
簡易其建設費モ亦貴カラス滿洲ニアリテモ三万四
内外ニシテ建造シ得ヘント云フ從ソテ其出鉄能力モ
一噸乃至二噸半ニ過キズ

丸爐ハ通常ノ高炉ニ類似シ唯多少ノ考案ヲ施シ勉

南滿洲鐵道株式會社

テ構造ヲ簡易ニシ捲揚、装入等一切機械力ヲ用ヒス
熱風装置ハ各個其構造ヲ異ニスルモ所謂鉄管式ノ
外ニ出テス今其最モ多ク行ハル、モノヲ擧ケレハ煉瓦ヲ
以テ豎或ハ横型ノ炉ヲ造リ炉内ニ螺旋状ニ送風管ヲ
通シ熔鑛炉ヨリ排出セル瓦斯ヲ炉内ニ導キ(直立或ハ横臥状)管内ノ空
氣ヲ加熱スルモノナリ此装置ニ於テ能幾百度ノ温度ニ達
シ得ヘキヤ未ダ實際ノ使用ヲ見サルヲ以テ判明セサルモ概
ネ四百度乃至五百度迄上シ得ヘシト云フ。又熱風炉ノ最
モ、レンブルナルモノハ數個ノ土造ノ竈ヲ並列シ置キ送
風管ヲ串字状ニ生竈ヲ貫通セシメタルモノニシテ土竈ニ
骸炭若クハ木炭ヲ燃燒スルトキハ管内ノ空氣ハ約二百度

マテ上騰スヘルト云フ。

送風装置ニルーツブロワー其他ノ送風機ヲ用フ風壓ニ封
度内外所要馬力小ハ五、六ヨリ大ハ六十乃至百ニトス。

該送風機ハ高田商會等ノ輸入ニカルモノ、外當地或ハ
大阪等ニ於テ製作セルモノナリ、動力ハ概ネ電動機ニ依
ルモ順興鉄工廠獨リ蒸汽機関ヲ装置スル討取ナリト
云フ。

要スルニ各製鉄所ノ目的ハ市價暴騰ニ附込ミ際物
的ニ奇利ヲ博セトスルニアルヲ以テ出来得ル限り簡單ヲ
旨トスルノニシテ一定ノ方針ナク所謂行キ當リバツタリ
ノ施設ニ過キサルナリ。



四、爐材

熔鑛炉及熱風炉等ニ用フル耐火煉瓦ハ滿鉄中央試験所
製品ノ外旅順耐火煉瓦會社、復州大順公司、實業部
等ノ製品ヲ使用セリ、炉材トシテ成績ハ未ダ判明セサル
モ最近奉天製鉄所ニ於テハ其使用セル旅順耐火煉瓦會
社製品カ高熱ニ耐ハサルニ至レリノ説アリ、尚詳細ハ各製
鉄所ノ火入レ後ニ俟タレ

五、鐵鑛

各製鐵所ノ原料トスル鐵鑛ハ主トシテ關東州内ヨリ採掘スルモノニシテ外ニ復州或ハ撫順附近ヨリモ多少供給セリ今關東州内ノ鐵鑛ニ就テ述ヘンニ關東州ニ發達セル硅板岩及硅質砂岩中ニ鐵泉ノ噴入セルモノアリ。幅約一尺ヨリ約四尺ニ膨大シ表面褐鐵鑛ト化セリ。優良ナル部分ニ於テハ四〇パーセント以上ニ達セルモ成因已ニ斯ノ如キヲ以テ鑛量ハ素ヨリ纏リタルモノニアラズ、亦石灰岩中ニハ其亀裂面ニ沿ヒ磁鐵鑛及褐鐵鑛ノ夾在スルコトアリ。是レ石灰岩中ニ含有セル鐵分ノ熔液ノ状態ヲ以テ析出し亀裂ヲ充填セルモノナルヘク層々葡萄状或ハ肝状ヲ呈シテ成層

南滿州鐵道株式會社

セリ 風化作用ノ結果岩石崩壊シテ鉄鑛ノ存在セルコトアリ此等ノ中ニハ稀ニ含鉄量ノ豊富ナルモノアリ現ニ採掘セル石灰蜜子鉄鑛産地ノ如キ則チ是レナリ又硅岩或ハ硅質砂岩中ニ沈澱セル赤鉄鑛或ハ磁鉄鑛ノ鑛層アリ此等ハ品位良好ナラサルモ可ナリ廣キ地域ニ涉リテ分布セリ

今踏査セル二三ノ鑛床ニ就テ記ス所アラシ

小平島于家山鉄鑛産地

大連民政署管内小平島會劉家屯東方約半里地質ハ硅岩、硅板岩、石灰岩ヨリ成リ東西ニ走り南ニ四十度内外ノ傾斜ヲナセリ、海岸ニ鉄鑛床ノ露頭アリ緩斜

七年七月
才外
二月廿八

セル于家山ノ南麓ニ沿ッテ走り百三十間之ヲ追跡シ得ヘ
シ、鑛床ハ鑛層ニ属シ厚サ四五尺ニシテ硅石内ニ浸染セ
ル褐鉄鑛ナリ、而シテ富鑛帶ハ其一部分ニ過キスシテ
極メテ不規則ニ脈状ヲナシテ存在セリ從ッテ鑛量ヲ豫
測スルコト困難ナルモ多クモ二三万吨ヲ出テサルヘシ、

本鉄鑛産地ハ現時大連市兒玉町山崎儀一外ニ名
鑛業権ヲ有シ居ルカ同人等ハ目下沙河口ニ建設中ノ
栗本製鉄所ト買鑛契約ヲ結ビ採掘ノ都合ニ依リテ
栗本ヲ鑛業権ニ参加セシメ採掘運搬一切ヲ同人ニ
委任セリ、(栗本製鉄所ノ記事参照)、而シテ現時ハ制土及
鑛石代一屯ニシテ金四九枚銀
ヒ鑛床ノ上盤ヲナセル石灰岩ノ除石作業中ナリ

南滿州鐵道株式會社

小平島鐵礦、中日實業公司分析所ニ於ケル試驗
成績尤ノ如シ

鐵、滿俺、硅酸、石灰、礬土、燐、硫黃
褐鐵礦上 四九、〇三八、三四、六、〇、二、二七四、〇、八四一、〇、二九三
全 平均 四三六、二、〇三八、三七、四、〇、八九、一、五〇、〇、三九九、〇、二二

先年中央試驗所ニ於ケル分析結果尤ノ如シ

鐵、硅酸、硫黃、燐

褐鐵礦一種 三、五八、四四九、〇、〇四四、一、〇五四、
共ニ鐵分僅少ナルニ及シ、硅酸多量且殊ニ燐ノ過多
ナルハ本鐵礦ノ價值ヲ大ニ減殺スルモノナリ

三十里堡國家溝鐵礦產地